発行所
CHALLENGE 70
日報ビジネス 株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5
電話03(3262)3488 FAX03(5214)6633
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11
電話06(6262)2406 FAX06(6262)2090

8月19日 №1693
2024年(令和6年)
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
平成元年9月22日 第3種郵便物承認
購読料(定価) 年間 22,900円＋税
1部本体 495円＋税

週刊 循環経済新
JUNKAN KEIZAI The Recycling Econ

和歌山初の「スーパーソル」工場

ワコー産業 空き瓶を原料に月400㎥生産

再生砕石や建設廃棄物処理等を手掛けるワコー産業（和歌山県印南町、山本雅弘社長、☎0738・45・0205）は、同町内で、廃ガラスが原料の多孔質軽量発泡資材「スーパーソル」生産工場を立ち上げた。和歌山県内で初、関西圏では3事例目の施設となる。

新工場の外観

設備のようす

生産規模は月間約400立方㍍で、主に県内から集めた空き瓶を原料に製造し、土木関係の顧客を中心に出荷している。廃ガラスのリサイクルを通じ、地域の資源循環に貢献していく。

消を推進するガラス発泡資材事業協同組合（沖縄県八重瀬町）が普及拡大を図っている。

スーパーソルは、廃ガラスを原料として製造する無機系多孔質の軽量発泡資材。ガラス瓶等を粉砕、焼成発泡し、粒径2～75㍉㍍の人工軽石にする。環境負荷の少ない土壌還元型資材で、軽量・透水性・保水性・耐火性・断熱性などの特長があり、土木をはじめ、緑化、農業、水質浄化、断熱といった幅広い用途で活用が広がっている。廃ガラスの地産地

新工場は、印南町内の空き倉庫だった場所を購入して改装し、4月に竣工した。約1000平方㍍の設備用の建屋と、製品保管用の建屋がある。スーパーソルを製造する「廃ガラス再資源化プラント」は、▽原料ホッパ▽投入コンベア▽ガラス破砕機▽カレット粉砕機▽振動ふるい機▽混合撹拌装置▽焼成炉▽制御装置――などで構成。1日（8時間稼働）当たり15～20立方㍍を生産する。

生産したスーパーソル

同社は、従来より廃ガラスを受け入れて再生砂等にリサイクルする事業を手掛けてきた。そうした中、事業の幅を広げることや地域貢献にもつなげられるとして、スーパーソル生産事業への進出を決めた。現在、和歌山県下の自治体やクリーンセンター等を中心に空き瓶月間60～70㌧を有価で買い取り、原料としている。

受け入れた空き瓶は、プラやごみを取り除くため、中間処理工場（印南町）で破砕や粗選別をした後に新工場に運搬。従来の工場設備を活用し、作業を効率化できる強みがある。また、スーパーソルの保管専用の建屋があり、製品が濡れないなど品質管理の面でメリットが大きいという。

同社の山本社長は、「和歌山県内でも、徐々にスーパーソルの認知度が向上している。より一層の販路拡大を目指していきたい」と話している。

シリコンR3号機が落成

アミタグループ 半導体産業の循環化に貢献

総合的な環境ビジネスを展開するアミタホールディングスグループで、100%リサイクル事業を展開するアミタサーキュラーは7月23日、北九州循環資源製造所（北九州市）にシリコン再資源化設備3号機を竣工した。九州地域で伸長する半導体産業のニーズを捉えるとともに、同業界のサーキュラー化に貢献する。同日には落成式を開催し、顧客や工事関係者など約25人が参加して、施設の前途を祝した。（関連記事3面）

竣工したシリコン再資源化設備3号機

落成式での記念撮影

新設したのは、シリコンリサイクル用の減圧蒸留装置。半導体の製造工程から発生するシリコンスラリー廃液を減圧・蒸留して固体と液体に分離し、それぞれ再資源化する。合わせて製品保管用倉庫も増設。同工場には2018年に1号機を、19年には2号機を導入しており、世界的な半導体ニーズの高まりを受け、処理能力を増強した。

式典では、半導体材料であるシリコンウェハーの世界最大手で、スラリー廃液の排出元であるSUMCOをはじめ、製造した循環資源のユーザーであるトクヤマ等が参列。3号機の竣工に祝辞を述べ循環の仕組み作りに、皆さんとともに取り組んでいきたい」と述べた。

廃棄物セミナーを開催

日報ビジネス 法律や脱炭素、お片付け等

日報ビジネスは10月1・2日、日本教育会館（東京・千代田）で「2024秋廃棄物セミナー」を開催する。

「間違えやすい廃棄物の定義・区分と違反事例」「お片付け・家財整理とリユース事業の新たな展開」「脱炭素と廃棄物処理業」の3テーマについて、有識者や事業者による解説・事例紹介等が行われる。

10月1日(火)（午後2時～4時30分）に行われる「間違えやすい廃棄物の定義・区分と違反事例」では、（一財）日本環境衛生センター技術審議役の村岡良介氏（環境カウンセラー）が廃棄物の定義・区分を、芝田総合法律事務所代表弁護士の芝田麻里氏が違反事例等を紹介・解説する。

10月2日(水)（午前10時～午後0時30分）に行われる「お片付け・家財整理とリユース事業の新たな展開」では、一般廃棄物処理業者とITプラットフォーマー、家財整理業者のそれぞれの立場から、お片付け・家財整理・リユース事業に関する現況・今後について解説する。

10月2日(水)（午後2時～4時30分）に行われる「脱炭素と廃棄物処理業」では、産業廃棄物処理業に求められる脱炭素の取り組みについて、ITプラットフォーマーと処理業者の視点から解説する。

各セミナーの定員は100人、聴講料は各1万円（税込み）、問い合わせは日報ビジネス（☎03・3262・3488）まで。

欲しい情報が見つかる!!
中古環境機器.jp
0120-931-410
株式会社 プラントシステム

脱炭素社会の実現づくり
優良取組
スーパーソル製造工場 竣工
解体からリサイクルまで
有限会社 鷺斫り
TEL. 0246-63-5173

B棟の各プラントのうち、粗大ごみのリサイクルは、事業所や家庭から排出される大型ごみや粗大ごみ、雑品を破砕・選別し、鉄・非鉄・廃プラスチック類等の資源を回収し再資源化に向けるもの。まず2軸破砕機で廃棄物を300㍉㍍アンダーに破砕し、オーバーの粗破砕物は焼却処理に回す。続いて1軸破砕機で150㍉㍍アンダーに破砕し、風力選別機で重量物と軽量物（可燃物）に分ける。重量物はドラム式磁選機で鉄類を抜きトロンメルで100㍉㍍オーバー、30～100㍉㍍、30㍉㍍アンダーに粒度選別。10～30㍉㍍オーバーは再び破砕工程に戻し、30～100㍉㍍はプーリー式磁選機、風力選別機、トロンメル、1軸破砕機（マルチクラッシャー）、ふるい機等の機器装置、廃棄物の展開ヤードと処理前・処理後物のピットを配置した。

宮城県から23年度みやぎ産業廃棄物3R等グスクリーン）を用いて焼却処理で生じた40㍉㍍アンダーの燃え殻を30㍉㍍オーバー、6～30㍉㍍アンダーに軟質物を対象とし、RPF原料などサーマル利用向け等の可燃物を得る。

燃え殻リサイクルの前処理は、A棟で稼働しているXRFで自社焼却施設から発生する

高森RCSの全景（写真中央がB棟）

新工場は、事業所や家庭から排出される大型ごみや粗大ごみ、雑品を破砕・選別し、鉄・非鉄・廃プラスチック類等の資源を回収し再資源化に向けるもの。まず2軸破砕機で廃棄物を300㍉㍍アンダーに破砕し、オーバーの粗破砕物は焼却処理に回す。続いて1軸破砕機で150㍉㍍アンダーに破砕し、風力選別機で重量物と軽量物（可燃物）に分ける。重量物はドラム式磁選機で鉄類を抜きトロンメルで100㍉㍍オーバー、30～100㍉㍍、30㍉㍍アンダーに粒度選別。10～30㍉㍍オーバーは再び破砕工程に戻し、30～100㍉㍍はプーリー式磁選機、風力選別機、トロンメル、1軸破砕機（マルチクラッシャー）、ふるい機等の機器装置、廃棄物の展開ヤードと処理前・処理後物のピットを配置した。

宮城県から23年度みやぎ産業廃棄物3R等

新たに整備を終えたのは、粗大ごみの破砕処理フローのうち、粗大ごみのリサイクルは、事業所や家庭から排出される大型ごみや粗大ごみ、雑品を破砕・選別し、鉄・非鉄・廃プラスチック類等の資源を回収し再資源化に向けるもの。まず2軸破砕機で廃棄物を300㍉㍍アンダーに破砕し、オーバーの粗破砕物は焼却処理に回す。続いて1軸破砕機で150㍉㍍アンダーに破砕し、風力選別機で重量物と軽量物（可燃物）に分ける。重量物はドラム式磁選機で鉄類を抜きトロンメルで100㍉㍍オーバー、30～100㍉㍍、30㍉㍍アンダーに粒度選別。10～30㍉㍍オーバーは再び破砕工程に戻し、30～100㍉㍍はプーリー式磁選機で各工程で選別された可燃物はドラム式磁選機に掛けて可燃残さと鉄に分ける。また、

燃え殻リサイクルの前処理は、A棟で稼働しているXRFで自社焼却施設から発生する